

平成25年度 教育委員会運営目標（達成状況）

運営目標	目標の内容(小項目)	達成区分		達成状況 (数値目標は実績値と達成率を記載) (※未達成[達成区分が×]の場合は、未達成の要因・理由を記載)
1 暴力行為など児童生徒の問題行動を防止し、また、いじめや体罰を無くすため、未然防止、早期発見、早期解決までの総合的対策に取り組みます。	① 緊急対策・早期解決 ・「いじめ対策専門指導員」等を派遣し、未解消いじめの早期解消やいじめのきめ細かな把握などについて学校を指導するなど、学校体制を支援【問題事象に対し迅速に配置】 ・暴力行為などの課題がある中学校区の生徒指導体制の充実「生徒指導緊急指導教員」の中学校への配置【問題事象に対し迅速に配置】 ・いじめ危機管理チームの派遣【深刻な事象が発生した場合迅速に派遣】	○	◎	・いじめ対策専門指導員の配置【1校配置】 いじめ早期対応緊急指導教員（非常勤講師）の配置【3校配置】 ・生徒指導緊急指導教員（非常勤講師）の配置【7校配置】 ・深刻な事象は現時点で発生していない。
	② 早期発見、相談体制の充実、学校体制の強化 ・スクールカウンセラーの配置【小17校、中高全校配置】 ・高学年を対象としたまなび・生活アドバイザーの小学校への配置【5校配置】 ・いじめ対策検討のための有識者会議（第三者委員会）の設置【設置】 ・教職員の意識改革のための研修会を開催【5回開催】		◎	・スクールカウンセラーの配置【小17校、中高全校配置】 ・高学年を対象としたまなび・生活アドバイザーの小学校への配置【5校配置】 ・いじめ対策検討のための有識者会議（第三者委員会）の設置【設置の上、5回開催し府教委としてのいじめ対策等を検討】 ・総合教育センター及び小中学校生徒指導主任会議にて開催【生徒指導講座及び会議内研修6回】
	③ 地域や警察をはじめとする関係機関と連携した、児童生徒の問題行動を防ぐための取組の推進 ・PTAと連携しいじめ・非行防止キャンペーンの実施【延100回】 ・外部講師を学校に派遣し、人との関わり方やいのちの大切さを伝える「いのちとこころのコミュニケーション事業」を推進【開催回数 延30回】 ・学校警察連携会議の開催【府内26カ所 延100回】 ・スクールサポーターや警察と連携した非行防止教室の開催【全小中学校】		○	・PTAと連携しいじめ・非行防止キャンペーン【延べ350回】 府内（京都市除く）50中学校PTAにおいて、全PTA会員を対象とした「声かけ（あいさつ）・見守り運動」を各校2回以上実施中 ・いのちとこころのコミュニケーション事業【開催回数 7回】 ・学校警察連携会議の開催【府内30カ所 延292回】（未確定値） ・スクールサポーターや警察と連携した非行防止教室の開催【全小中学校】
	④ 学校から体罰を一掃するための取組の推進【体罰0】 ・体罰防止のための手引きを作成し学校で活用 ・運動部活動指導の手引き（仮称）を作成し学校で活用 ・教職員の意識改革のための研修会を開催		×	・懲戒処分となる件数は0【小学校1件、中学校5件、高校3件で体罰事象発生】 ＜未達成の要因・理由＞ 教職員の意識改革徹底が不足していたため ・各学校にて手引きを活用【体罰防止の手引き作成】 ・各学校にて手引きを活用【運動部活動指導ハンドブックを作成し、公立中学校、府立高校全教員に配付】 ・運動部活動指導者特別研修会を実施【参加者256名】 府派遣運動部活動外部指導者研修会の実施【南北2会場で開催】 運動部活動指導者研修会（中・高体連等と連携）【参加者：中学校77名、高校107名】

平成25年度 教育委員会運営目標（達成状況）

運営目標	目標の内容(小項目)	達成区分		達成状況 (数値目標は実績値と達成率を記載) (※未達成[達成区分が×]の場合は、未達成の要因・理由を記載)
2 子どもの命を守るための学校安全教育を徹底的に取り組むとともに、安心・安全な教育環境を整備します。	① 地域社会やあらゆる関係機関と連携した通学路の安全確保をはじめとする徹底した学校安全体制の整備 【児童生徒登下校中の事件・事故による死傷者0を目指し、昨年度比大幅減】 ・ 通学路安全対策アドバイザーの派遣 ・ 「地域安全マップづくり講習会」の開催 ・ スクールガードなど、地域人材による通学路安全確保の取組推進	○	◎	・ 学校安全教室指導者講習会 教職員対象に府内2会場で実施。実践的な安全教育（生活安全・交通安全）を推進するための校内研修の在り方等について研修 通学路の安全点検の実施 教育、警察、道路管理者の三者による通学路の交差点を中心とした安全点検を実施。ソフト・ハード両面から事故危険リスクの低減に向け、昨年度から実施している緊急点検に基づく対策も活用しながら、三者共同で対策進行中 【児童生徒の登下校中の重災害事故者数36名(昨年度40名) ・ 専門知識を有する通学路安全対策アドバイザーの助言に基づく効果的な安全対策の実施 (城陽市) デザイン専門の大学教授を派遣。道路のカラー化や効果的な安全標識 ・ 地域安全マップづくり講習会 (実践編) 福知山市立小学校1校 (座学編) 向日市立小学校1校 ・ 地域人材による通学路安全確保の取組の推進 【6市町のスクールガードリーダー活動を支援】
	② 府立学校施設の耐震化の加速 【25年度末耐震化率88% 工事着工率92.4%】 ・ 府立高校20校41棟の耐震補強工事の完成 ・ 新たに府立高校22校29棟の耐震工事に着手		◎	・ 【25年度末耐震化率88.2% 工事着工率92.7%】 ・ 【府立高校20校41棟の耐震補強工事完成】 ・ 【新たに府立高校21校29棟の耐震工事に着手】
	③ 「学校における安全教育の手引き」を活用した実践的な安全教育の取組推進 【学校安全計画作成率 100%】 ・ 地域と連携した学校での防災訓練や予告なしで行う緊急訓練等、実効性のある防災訓練の促進 ・ 外部有識者による学校防災体制をチェック・指導する体制の整備		○	・ 【学校安全計画作成率 99.1%】 ※H25調査によるH24実績 ・ 防災教室指導者講習会 教職員対象に府内4会場(参加者:318人)で実施。実践的な災害安全教育を推進するための校内研修の在り方等について研修 (講演) 京都地方気象台による気象や災害に応じた防災について (講演) 府防災・原子力安全課による災害と避難所運営について ・ 実践的防災教育支援事業 福知山市で市内全小中学校による避難訓練を実施。児童生徒が災害のメカニズムや発災時の対応について学ぶ防災ノートを作成。

平成25年度 教育委員会運営目標（達成状況）

運営目標	目標の内容(小項目)	達成区分		達成状況 (数値目標は実績値と達成率を記載) (※未達成[達成区分が×]の場合は、未達成の要因・理由を記載)
3 京都ならではの教育を進めることで、全ての子どもにしっかりとした生活習慣や学習習慣を確立させるとともに、一人一人の子ども個性や能力を引き出し、質の高い学力を身につけさせる教育を推進します。	① 小中学校における京都式少人数教育の推進 【全小中学校で実施】 ・小学校1, 2年生で35人学級を実施するとともに、30人を超える学級で複数教員による指導を実施できるよう教員を配置 ・小学校3～6年生で30人程度で学級編制が可能な教員を配置 ・中学校に30～35人程度で学級編制ができる教員を配置 ・小学校から中学校への円滑な接続を図り、児童の個性や能力を伸ばすため、中学校教員等による教科指導を実施	○	◎	・ 京都式少人数教育推進事業 【小学校(336校) 30人程度学級 457名(単費60名)の教員配置を実施】 【中学校(194校) 35人以下学級 357名(単費39名)の教員配置を実施】 【小1(83校) 小学校低学年指導充実 218名(単費)の教員配置を実施】 【小2(73校) 小学校低学年指導充実 186名(単費)の教員配置を実施】 京都式専科教育推進事業 【中学校(10校) 小学校24校で専科指導を実施】 【高等学校(2校) 小学校18校で専科指導を実施】
	② 生活習慣や学習習慣の確立の支援 ・ 小中学校への「まなび・生活アドバイザー」の配置 【小学校17校 中学校18校】 ・ 保育所や幼稚園、家庭と連携した「もうすぐ1年生体験入学事業」の実施 【100校】 ・ 「親のための応援塾」の開催 【新1年生を持つ親の参加率 95%】		○	・ 小中学校への「まなび・生活アドバイザー」の配置 【小学校17校 中学校18校】 ・ 「もうすぐ1年生体験入学事業」の実施 【102校】 ・ 小学校PTA等による「親のための応援塾」の開催 【新1年生の子どもを持つ親の参加率 91%】
	③ 基礎基本の徹底 【府小中学校基礎学力診断テスト 正答率50%未満の児童生徒割合 小(国・数):10% 中(国・数・英):18%】 ・ 中1振り返り集中学習(ふりスタ)の実施 ・ 土曜日等を活用した中2学力アップ集中講座の実施		×	・ ふりスタ、中2学力アップ集中講座を実施し基礎基本を徹底 【小(国6.9%、算12.7%) 中1(国7.0%、数14.8%) 中2(国19.5%、数36.4%、英21.7%)】 ＜未達成の要因・理由＞ 学力をより詳細に把握するため診断テストの平均正答率を引き下げたもの
	④ 学習意欲の向上 ・ 中学生の読解力向上のための小論文グランプリ、読解力向上フォーラム開催 ・ 大学等と連携し、大学の研究者等から最先端の授業を受ける出前学習の実施 【延べ 150回】 ・ 京都大学との連携による数学オリンピック・物理グランプリの開催 【参加者 延べ1,000名】		◎	・ 小論文グランプリ及び読解力向上フォーラム開催 【グランプリ参加:個人作品146名、文集作品20校 フォーラム参加:105名】 ・ 大学等による出前授業の実施 【151校】 ・ 京都大学との連携による数学オリンピック・物理グランプリの開催 【参加者 延べ871名 ※前年度比100名増】
	⑤ 学校での学力向上の実践 ・ 退職教員や保護者からなる支援員チームを、土曜学習や個別学習などで学力向上を目指す学校へ配置 【12校】 ・ 学校独自の学力向上プランを実践研究する、学力向上システム開発校の指定 【10校】		◎	・ 学力向上拠点校として、12中学校に学力向上サポートチームを配置し取組を推進 【小学校4校、中学校6校】 ・ 学力向上システム開発校を指定し、学校独自の学力向上のための実践研究を推進 【小学校4校、中学校6校】

平成25年度 教育委員会運営目標（達成状況）

運営目標	目標の内容(小項目)	達成区分		達成状況 (数値目標は実績値と達成率を記載) (※未達成[達成区分が×]の場合は、未達成の要因・理由を記載)
4 生徒、保護者の多様化するニーズにしっかりと応え、学校選択の指標となる特色化を推進するとともに、生徒の個性・能力を最大限伸ばし「夢」を叶えるための府立高校づくりを進めます。	① 魅力アップのための府立高校特色化 ・大学研究員と高校生が共同研究を行う「研究室」を設置 ・高校サポートカンパニーである先端企業の社員によるワークショップ等の実施 ・「高校生カバン」を設立し、府立高校生ブランド品を企画、生産、販売 ・ユニークな部活動の新設やICTを活用した授業の実践など、各校が目指す特色化を支援 ・歴史と伝統を活かした京都らしい高校として、鴨沂高校を全面リニューアル(基本・実施設計) ・全通学園(5通学園)での公立高校合同説明会の開催	◎	◎	・8校 ・6校 ・6校 ・24校 ・鴨沂高校の全面リニューアルについて検討 【校舎整備の基本・実施設計について公募型プロポーザルを実施するに当たり、校舎の歴史的・文化的価値などについて幅広く意見を聞く、外部有識者による意見聴取会議を開催(3回開催)。意見聴取会議で、公募型プロポーザル参加設計者の技術提案書についてヒアリングを実施し、府において設計者を決定。生徒、保護者、教職員等によるワークショップを開催(4回開催)し、基本設計方針(「多様なニーズに応える教育活動を実現する新しい施設」「歴史的・文化的価値の継承」「環境・災害対応、安心・安全な教育環境」や立地諸条件を勘案した配置計画案(基本設計)を策定] ・全通学園で合同説明会を開催 【京都市・乙訓地域(4日)約12,100名、山城地域(1日)約3,300名、口丹地域(1日)約1,550名、中丹地域(3日)約2,300名、丹後地域(3日)約680名]
	② 京都フレックス学園の整備 ・生徒の多様な学習ニーズに柔軟に対応する教育システムの具体化と平成27年4月開校に向けた京都市地区新設校建築工事の着工		◎	・新設校の具体的な教育内容などを準備するため、9月から専任スタッフを置くなど、検討を進めている。 保護者等対象の説明会には約330名が参加、基本コンセプトや学習システムなどの説明及び個別相談を実施した。 府議会9月定例会にて、新築工事請負契約締結に関する議案を議決。11月着工
	③ 京都市・乙訓地域公立高等学校の新しい教育制度策定 ・新制度の詳細を策定し、平成26年度入試として実施		◎	・新制度の詳細を策定し、広く広報した。 前期選抜、中期選抜、後期選抜を実施したが、府立朱雀高校の前期選抜において不適切な運用を行った。
	④ 京都市・乙訓地域公立高等学校の新しい教育制度策定 ・新制度の詳細を策定し、平成26年度入試として実施		◎	・新制度の詳細を策定し、広く広報した。 前期選抜、中期選抜、後期選抜を実施したが、府立朱雀高校の前期選抜において不適切な運用を行った。
5 心の教育の充実、子どもの公共の精神や規範意識をはぐくみ、社会の仕組みなどを理解する教育を推進します。	① 京都府独自の心の教育学習資料集「京の子ども 明日へのとびら」等を活用した豊かな心をはぐくむ取組の推進 【全小中学校で実施】	◎	◎	・「京の子ども 明日へのとびら」等を活用した豊かな心をはぐくむ取組を推進 【全小中学校で実施】
	② 「結ネット KYOTO」を充実し、法律や金融、租税などの社会の仕組みやルールを専門家から学ぶ、出前学習を促進 【延べ 小中学校150校 府立高校15校】		◎	・法律や金融、租税などの社会の仕組みやルールを専門家から学ぶ出前授業実施 【延べ 小中学校282校 府立高校77校】
	③ 発達段階に応じたキャリア教育の推進 ・小中学校における伝統文化や仕事体験活動の実施 【全小中学校】 ・全府立高校生を対象に、起業家によるグループワークや多様な職場体験、インターンシップなど実践的キャリア教育を推進 【全府立高校】 ・特別支援学校高等部の職業教育の在り方などについて方向性決定 【有識者等の意見を聴取し方向性決定】		◎	・伝統文化や仕事体験活動の実施 【全小中学校】 ・各府立高校が企業関係者をはじめ様々な職種の講師を招いたキャリアセミナーや、インターンシップ等のキャリア体験活動等、実践的なキャリア教育を実施 【全府立高校実施】 ・特別支援学校高等部の職業教育の在り方について検討 【有識者会議を5回開催し意見をまとめた。】
	④ リーガルマインドを育成するための発達段階に応じたプログラムの開発 【京都式法教育の開発】		◎	・子どもの発達段階に応じた内容等についての検討・研究を推進 【「法やルールに関する教育プロジェクト会議」を設置】

平成25年度 教育委員会運営目標（達成状況）

運営目標	目標の内容(小項目)	達成区分		達成状況 (数値目標は実績値と達成率を記載) (※未達成[達成区分が×]の場合は、未達成の要因・理由を記載)
6 京都の伝統文化を継承し、国際感覚を身に付け、グローバルに活躍できる京都ゆかりの国際人の育成に取り組めます。	① 府立高校で茶道や華道の専門家等による京都の伝統文化の体験学習を実施 【茶道:全校 華道:15校 古典芸能等:10校】	◎	◎	・ 府立高校で茶道や華道の専門家等による京都の伝統文化体験学習を実施 【茶道:全校、華道18校、古典芸能等:17校】
	② 地域社会で京都の伝統文化に触れる機会の充実 ・ 「古典の日」を中心に府内5会場で小中学生による古典の朗読大会等を開催し、日本語の美しさや地域の文化を感じる取組を実施 【参加者 4,000名】 ・ 「古典」をテーマとした補助教材を作成し学校で活用 ・ 埋蔵文化財発掘調査、重要文化財建造物修理現場等の公開 【参加者 8,000名】 ・ 郷土資料館での小中学校対象文化財出前学習等の実施 【延べ40回】 ・ 丹後郷土資料館における「海の京都」の歴史拠点としての在り方など、郷土資料館のグランドデザインを決定		◎	・ 10月以降に府内5会場で「こころを育む古典の日推進事業」（古典作品等の暗唱・朗読大会）を実施 【参加者約5,000名】 ・ 古典補助教材「京都府の古典」を作成し配付 ・ 埋蔵文化財発掘調査、重要文化財建造物修理現場等の公開 【11,206名】 ・ 郷土資料館での小中学校対象文化財出前学習等の実施 【延べ50回】 ・ 府立郷土資料館の在り方に関する意見聴取会議を4回開催し意見をとりまとめた。
	③ 府立高校生の海外留学や英語力の向上など、国際化に対応した教育の充実 【英検準2級以上の府立高校生の割合29%→32%】 ・ 府立高校生の海外語学研修など海外留学制度の継続 【府立高校生の海外留学 100名】 ・ ネイティブスピーカーのAETによる府立高校での実践的な英語指導の実施 【全府立高校】		○	・ 【英検準2級以上の府立高校生の割合30% ※平成25年12月時点】 ・ 府立高校生の海外語学研修、海外留学を支援 【エディンバラ29名、短期留学チャレンジ61名、長期留学支援8名 計98名】 ・ ネイティブスピーカーのAETによる府立高校での実践的な英語指導の実施 【全府立高校配置(36名)】

平成25年度 教育委員会運営目標（達成状況）

運営目標	目標の内容(小項目)	達成区分		達成状況 (数値目標は実績値と達成率を記載) (※未達成[達成区分が×]の場合は、未達成の要因・理由を記載)
7 小中学校及び高等学校における特別支援教育推進及び地域での特別支援教育の相談体制を充実します。	① 京都府スーパーサポートセンターの専門性を活かした特別支援学校教員等の指導力の向上及び地域支援センターの小中学校等に対する相談体制の充実 ・スーパーサポートセンターにおける参加体験型等の教員研修の実施【10回 参加者500名】 ・地域支援コーディネーターの配置【29名配置 相談件数 5,000件】	◎	◎	・スーパーサポートセンターにおける参加体験型等の研修 11回計画【11回 参加者627名】 ・地域支援コーディネーターの配置【29名配置 相談件数 6,823件】
	② 小中学校及び高等学校における特別支援教育の推進体制充実及び地域支援センターにおける教員等を対象とした研修の実施 ・府立高校に在籍する発達障害等がある生徒への支援体制の充実【2名配置】 ・高校における個別の指導計画の作成促進【60%】 ・地域支援センターにおける小中学校教員等を対象とした研修の実施【延べ110回以上】		◎	・府立高校特別支援教育支援（非常勤講師）【2校に2名配置】 ・高校における個別の指導計画の作成促進【9月1日時点59.3%】 ・地域支援センターにおける小中学校教員等を対象とした研修【1月末まで実施 158回】
8 実践力を備えた教員の養成やそれぞれの学校現場の課題に応じた指導力向上を図るとともに、教員の内発的な意欲を一層高め、自らが研鑽する仕組みを構築します。	① 企業や大学と連携した研修を通じたミドルリーダー、学校改革の中核となる教員の育成 【研修講座45講座、イノベーションリーダー養成10名】	◎	◎	・企業や大学と連携した研修を通じたミドルリーダー、学校改革の中核となる教員の育成 【研修講座63講座、イノベーションリーダー養成12名】
	② 大学と連携し、学校現場での実践力を備えた教員の養成 ・教員志望の大学3回生を対象としたインターンシップ「教員養成サポートセミナー」の実施【参加者100名】 ・「教員養成サポートセミナー」修了者等を対象とした「教師力養成講座」の実施【参加者60名】		◎	・教員養成サポートセミナーについては、全校種で実施し、優秀な教員の確保に向けた取組を充実した。 【演習校数 21校(小12, 中5, 高2, 特2) 参加者140名】 ・教師力養成講座6期 【85名応募、選考の上59名受講、うち57名が採用試験に志願、37名合格】
	③ 集合型研修から学校現場のニーズに応じた研究・支援への改革推進 ・学校現場で受講できる出前講座の充実実施【延べ200講座 受講者4,500名】 ・単位履修制度による課題に応じた受講システムの推進【総合教育センター研修受講者 延べ22,000名】		◎	・学校現場で受講できる出前講座の充実実施【延べ269講座 受講者6,579名】 ・単位履修制度による課題に応じた受講システムの推進【総合教育センター研修受講者 延べ25,742名】
9 学校と家庭、地域社会が一体となって教育を行うための環境整備を府内全域で推進します。	学校と地域が協働して子どもたちをはぐくむ取組の推進 ・学校支援地域本部等の取組推進【新規取組校(園)10校】 ・「京のまなび教室」の開催【19市町(組合)教委78教室】 ・市町村における子育て・親育ち講座等の実施促進【延べ55講座】 ・小学校PTA等による「親のための応援塾」の開催【新1年生の子どもを持つ親の参加率 95%】	○	○	・「学校支援地域本部事業」の実施【新規取組校(園)20校】 ・「京のまなび教室」の開催【19市町(組合)教委74教室】 ・子育て・親育ち講座等の実施【59講座】 ・小学校PTA等による「親のための応援塾」の開催【新1年生の子どもを持つ親の参加率 91%】

平成25年度 教育委員会運営目標（達成状況）

運営目標	目標の内容(小項目)	達成状況 (数値目標は実績値と達成率を記載) (※未達成[達成区分が×]の場合は、未達成の要因・理由を記載)	
		達成区分	
10 学校や地域 社会で子どもたちの体力・競技力の向上を図る取組を推進します。	① 小学生の発達段階に応じて体力向上を図るための指導資料「京のこども元気なからだスタンダード」（3、4年生版）及び「京のこども元気なからだスタンダードPLUS+」（5、6年生版）の活用促進、小学校教員の指導力向上 ・「体力向上推進プロジェクト」実践校によるスタンダードを活用した体育授業等における体力・運動能力の向上に向けた取組の実施【指定校11校】 ・小学校教員への「京のこども元気なからだスタンダードPLUS+」（5、6年生版）の周知と指導力向上を図るための「スタンダード実技研修会」の開催【年5回 水泳、陸上運動、器械運動など】	◎	・「体力向上推進プロジェクト」実践校【11校】 各校の実践計画に基づき、取組を実施。「京の子どもすすく元気っ子出前授業」を全実践校で実施。実践報告書を作成し全小学校に配布 ・京の子ども元気なからだスタンダード実技研修会の実施 ①水泳実技講習会【参加者58名】 ②体づくり運動等実技講習会5回【参加者117名】
	② 中学校での武道・ダンス必修化に対応できる指導体制の充実 ・2～5年目の教員や女性教員、指導経験の浅い教員を対象とした柔道等の実技講習会の開催【年3回(柔道2回、ダンス1回)】 ・保健体育科の初任者教員に対する武道の実技研修の実施【全初任者教員の受講】 ・地域の専門的指導者の派遣による中学校での武道・ダンス授業の充実	◎ ◎	・平成25年度柔道実技講習会(対人的技能の習得と技能の程度に応じた安全な指導方法) 【南部会場参加者36名、北部会場参加者31名】 平成25年度ダンス実技講習会(現代的なリズムのダンス) 【参加者37名】 ・初任者柔道研修講座(講義、礼法・受け身・立ち技) 【全初任者教員の指導】 ・武道等指導推進事業 体育授業への武道・ダンス指導者(授業補助者)の派遣【2校(剣道1校・ダンス1校)】
	③ スポーツ指導者が子どもたちを指導する取組の推進 ・地域のスポーツ指導者による部活動等指導の実施【中学校100運動部、高等学校50運動部】 ・京都ゆかりのトップアスリート等による学校や地域での指導の実施【国体選手等派遣事業、もっと元気な京都ジュニア「夢・未来」スポーツ体験事業 20種目20会場 参加者延べ1,500名】	◎	・地域のスポーツ指導者による部活動等指導の実施【中学校52校64運動部 高校33校67運動部】 ・国体選手派遣事業 【国体が終了後、希望を募って実施予定】 「夢・未来」スポーツ体験事業 【20種目20会場 参加者1,300名】○
	④ 新たな「京都府スポーツ推進計画(仮称)」の策定	◎	・「京都府スポーツ推進計画」策定
11 府民の声を 受け止めた 教育行政の 推進に努めます。	① 教育委員会と府民の積極的な交流、府民への積極的な広報活動 ・直接現地に出向き、地域住民・保護者・教職員等と意見交換を行う、スクールミーティングや移動教育委員会の開催 ・府立高校生との意見交換や教育委員の出前授業実施	◎ ◎	・スクールミーティング【10校】 各通学圏公立高等学校合同説明会【4回】 ・教育委員による出前授業【4校】 府立学校の視察(クラブ活動等)【3校】 ふれあい心のステーションの視察と生徒との意見交流 グローバルチャレンジ参加生徒からの帰国報告会
	② 教育委員の施策形成プロセスへのより積極的な参加 ・教育委員会や他の検討会議などで積極的に具体的な施策の方向性等を示す。	◎	・非行防止教室の視察とスクールサポーターや教職員との意見交換【1校】 土曜教育実践研究校の視察と教職員との意見交換【2校】 京都大学との連携事業視察 府公安委員会、京都市教育委員会との意見交換会